

3

家族の姿を生き生きと描く

【家庭の日】作文コンクール

沖縄県青少年育成県民会議（小波蔵政光会長）主催による昭和52年度「家庭の日」作文コンクールがこのほど行われ、本村今帰仁中学校2年生（現在3年生）の新垣百合子さん、当間絹江さん、高良ゆき子さん、伊是名領子さんの4人の生徒の作品がみごとに奨励賞に入賞しました。

そこで、先月号（第35号）で紹介しました新垣百合子さん、当間絹江さんの作品に続いて 今回は高良ゆき子さんと伊是名領子さんの作品を紹介したいと思います。



父母の姿

今帰仁中学校2年

高 良 ゆき子



ある朝、まだ寝むたい目をこりてながらお所へ行くと、父が、母と一緒に朝ごはんを作っていました。普通の家庭では、なかなか見られない光景でした。でも、我が家では、もうあたりまえのようになつてしまっているのです。父はとても母思いなのです。どうしよう。

きなど「とうちゃんも手伝うが」とや
そん父を見ていると、わたしも頬張
うようになつてくるのです。
母が病が悪いと朝おさまで寝て
朝早く起きて朝ごはんを作つていま
ちやんが作った朝ごはんおいしいだらう
これからもう作つてあげないからね」「
今度カレーライスの作り方教えてね
う楽しそうにやっているみたいで
し達の好物を作ってくれるので、母が
父が作てくれるほううがれしいで

つてくるからです。ならまくつちやと思
いるときなど、父 たなづきました。家庭と
した。父は、「父 していくことに意義がある
うして父は、自分の仕事
たしなんか、自分の仕事
なんていつたり、どうもそこがわたしには
「なんて、けっこ ほんとうに樂しいのでし
また、父は、わた はいいいやながらるよ
作ってくれるより、うふるまっているのでし
そうだと思います。だか 仕事をでいそがしいんだ
のために仕事をやってい
ます。

「またある意味では、わたし達のものではないか、と思うようには、お互い助け合いながら生活の仕事ではないのでしょうか。また仕事をやめてしまうか。わざわざやらないでいるのに……」

1日～30日

につかなくてはいけないというのに、せんたく物などをほすためにちくしそうになるときもあるそうです。父にはほんとうにすまないと思つています。また、父の車をきぶりを見て、いるところなんか楽しんでやつてゐるようにも見えます。わたしもがたがた物などをほしてゐると

しかし、母ちゃんが一番何もやつていのいき。普通の家庭みたいに。母が仕事をいかなければどんなによいかとも思ひません。母が仕事を行くために休みなどわたらず。でも、少し考えてみると、やっぱり母だって父だって

一つ屋根の下で

今歸仁中學校二年 伊是名 領子

す機会が多くなったからだろうか。
小さなこどもの頃を含め、一日の出来事などおしゃべりする
。兄が就職して今は家はない。遠く離れてはいる
けれど、まじめに今はついて
るだろうか。時々電話をする
。電話ごとの兄はどうでも
嬉しい。そして電話をかけ
る父母や祖母の顔は、とて
もうれしそうだ。家にいる
時いつもケンカばかりし
ていたわたしは、兄と話す
のがてれくさくてまたにしか話さない。いつか新人戦の
話をしたら「がんばれよ」といつてくれた。わたしは
うれしくて家の中に言い回った。



最近、父が兄の所に行ってきた。大家さんの話によると「一完全心配はいりませんよ」だそう。父は、「安心したのが兄の買いたい物でないぶんにお金を使つたのです。兄の写真を見てみると、ちっとも変わっていないので、わたしもちょっとびっくり安心した。

電話をかけをもつていたので、すぐにお金を送ることにした。工場にもいい人がいてよかつたな。わんしが、兄の誕生日を家族で祝つたことを話すと、兄は笑っていた。こたつを囲んでおしゃべりしていると、いつも笑い話みたいになつて家中に笑い声が響く。九宮鳥の九ちやんもみんなが笑うと笑い声をまわるのだ。そしてまたみんなでまわる。そんなとき、ああ、ほんとに幸せだなあと感じる。ふだんむずかしい母の顔も柔らぎ、いそがし毎日の祖母も笑顔になる。

わたしは目をつぶったが涙がとまらなかつた

兄の就職を喜んでいた。家のなかが変わったみたいだ。わたしも何となく変わったみたいだ。心を開いていけばみんなどううち溶げることができる、楽しくなる。家族のありがたさを知ることができる。そして今、わたしはなんでもできそうな気がする。大発見をしたようなわたしは、とても幸せだなあと思う。わたしはいろいろなわたしたちをふみ台にして、みんなといっしょに前進していくよ。

秋の全国交通安全運動 9月 21 日～30 日

今年のテーマ | 安全運転管理の充実と安全運転の促進
 歩行者及び自転車利用者、特に子供と老人の交通事故防止

